

2025年3月13日

各位殿

生計費ひとこと調査の結果

30～40代女性に苦しさ集中

札幌地区労働組合総連合

札幌地区労働組合総連合は、札幌をはじめとした石狩管内の労働組合の連合体です。72組織 5,000人の組合員を対象に、この間の物価大高騰が組合員に及ぼす影響についてアンケート調査を行い、1,871件の回収できました。

1、集計情報

調査期間は2024年12月から2025年2月末までと設定し、働く職種の産業は医療が60%、介護19%、給食・調理5%、印刷3%、保育3%となりました。性別は女性74%、男性26%で、雇用形態は正職員69%、非正規29%、その他1%でした。

2、生活実態

生活実態で「かなり苦しい」と「やや苦しい」をあわせた回答は73%で、4人のうち3人が生活実態に苦しさを感じている結果です。「かなり苦しい」と「やや苦しい」を合計し、雇用別にみると、正職員で78%、非正規で60%となり、正職員の方がより「かなり苦しい」と「やや苦しい」と回答する傾向です。

3、月の不足額

「月の不足額5万円以上」の回答は54%でした。属性別にみると、正職員が55%、非正規が47%、正職員を性別にみると正職員女性は58%、正職員男性は46%でした。正職員女性の方が月の不足金を感じる傾向で、正職員女性30代と40代は60%以上となっており、同年代男性に比べて15%以上高い傾向がみられています。

4、まとめ

今回得られた集計の7割以上が生活実態に「苦しい」と感じており、「月の不足

額 5 万円以上」は 54%になりました。正職員女性の 30 代は最も月の不足額を感じており、同年代の正職員男性に比べて突出しています。

自由記載欄には、「最低限の生活をする分には問題はないけど、食費は節約しているし、リフレッシュやストレス発散、趣味活動などに余裕を持って使える程はない。生きていけるがただそれだけ。希望や楽しみを持って生きていくことは出来ない（介護・正職員女性 20 代）」「オムツ手当てください！現物支給でもいいので（医療・正職員女性 30 代）」「賃金は上がらないのに、物価はあがり大変です。若者は初任給が 20 万を越えてベテランは 20 年以上働いても初任給との差は 5～6 万。そんな中で仕事を続けるのは疑問しかありません（保育・正職員女性 40 代）」「日本では毎月の生活だけでなく、老後の資金も貯めないと出来ないのにこれでやっていけるのかと、いつも不安になります。子どもが私立に行くか、国公立に行くかでもだいぶ違うし、不安しかないです安心して暮らしたい（保育・正職員女性 40 代）」といった、物価高の影響や子育て・教育費用の負担を通じて将来を不安視する声が並びました。なお、子育てや教育費の負担についての自由記載は女性に限られました。

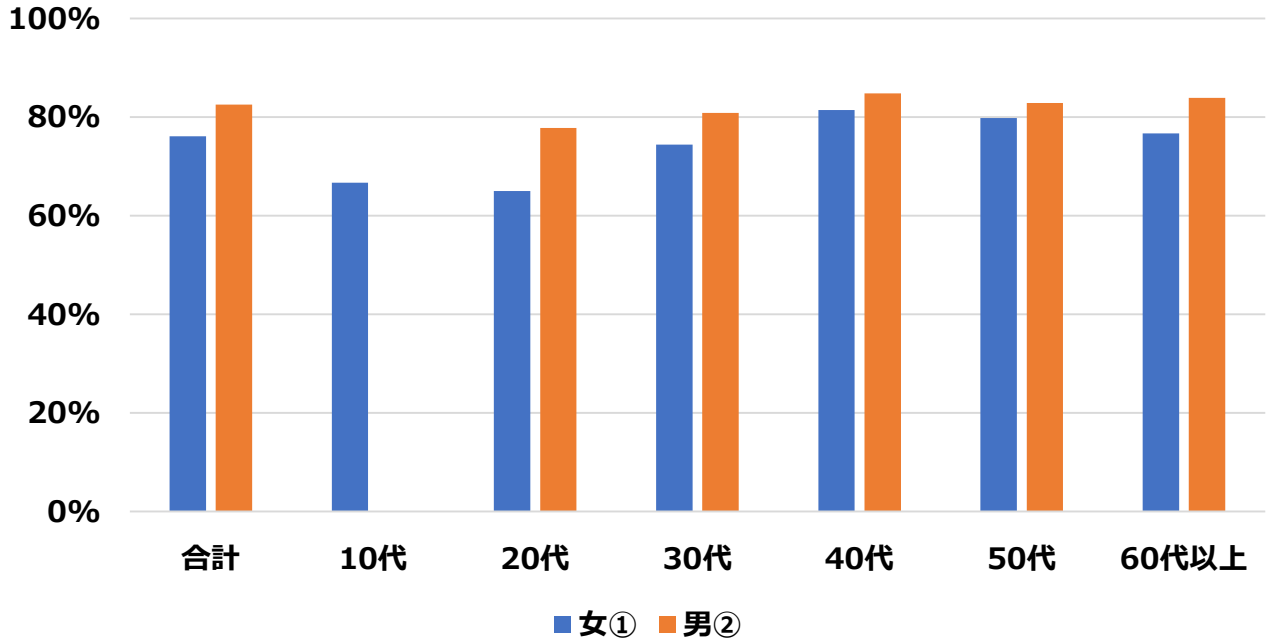
5、今後の取り組み

①物価高騰に対する大幅な賃金アップと、②負担の集中する世代への施策の必要性が浮き彫りになり、あわせてライフスタイルに応じた施策が検討課題と捉えられました。今後、札幌地区労働組合総連合は、加盟組織に情報を共有するとともに、札幌市との懇談にて施策の実現を求めます。

以上

正職員男・女「生活苦しい+やや苦しい」の割合

	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
女①	76%	67%	65%	74%	81%	80%	77%
男②	82%	---	78%	81%	85%	83%	84%
①-②	-6%	---	-13%	-6%	-3%	-3%	-7%



正職員男・女「月の不足額5万円以上」の割合

	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
女①	58%	33%	51%	66%	62%	55%	55%
男②	46%	---	44%	36%	45%	54%	58%
①-②	12%	---	7%	30%	17%	2%	-3%

